

第1回 安全安心なまちづくりワークショップ結果

～わがまちの「安全・安心」を点検しよう！～

【ワークショップの目標】

地域で様々な立場で活動している人に集まっていただき、地域が抱えている防犯・防災などの不安に対する課題や地域活動の課題を認識します。そして、最終的には「私たちのまちは地域コミュニティが強かったから、災害が発生しても犠牲者はゼロであった」、「新潟市に住んでいて良かった」と誇れる安全安心なまちづくりを目標にします。

【第1回ワークショップの概要】

- 第1回ワークショップは、有明台小学校区（中央区）、松浜小学校区（北区）、亀田西小学校区（江南区）において、各小学校区の住民や小中学校教諭をはじめ合計 73 名の参加を得て実施しました。
- 新潟市全体と各小学校区の災害リスクの説明の後、各テーブルにおいて、災害や普段の生活における不安要素、地域活動を行うにあたっての現状の課題について議論し、グループごとに意見を発表しました。

【第1回ワークショップの開催プログラム】

- ① 開会挨拶 / 全体ファシリテーターの紹介・挨拶
- ② ワークショップの目的について説明
- ③ 地域における災害の危険性について説明
- ④ 第1回ワークショップの進め方について説明
- ⑤ グループ作業
- ⑥ グループ発表
- ⑦ 全体のまとめ
- ⑧ 第2回ワークショップについて / 閉会挨拶

【全3回のワークショップスケジュール】

【第1回】 平成20年12月2日、8日、9日
わがまちの「安全・安心」を点検しよう！



【第2回】 平成21年2月2日、3日、4日
地域コミュニティを活性化するための方法について考えよう！
～人と人が助け合い、支え合う「〇〇小学校区」づくり～



【第3回】 平成21年2月23日、24日、25日
〇〇小学校区の「行動計画」を作ろう！

第1回ワークショップの進行状況

開会挨拶

新潟市から挨拶があり、その後、全体ファシリテーターからワークショップの目的について説明がありました。



地域における災害の危険性について説明

新潟市全体と各地区における災害の危険性について、説明がありました。



グループ作業

A～Dグループに分かれて、わがまちの安全・安心に関する不安や問題について自分の意見をカードに書いて模造紙にはり、他の人と似たようなテーマの意見のグループピングを行いました。



グループ発表

各グループから発表者をひとり選んで、それぞれのグループで出された意見を発表しました。各グループの考えをワークショップ参加者全員で共有することができました。



閉会挨拶

オブザーバーの方などから、今回のワークショップについての意見を発表してもらい、閉会としました。



有明台小学校校区

平成 20 年 12 月 2 日 (火) 午後 7 時から
有明台小学校視聴覚教室にて
参加者 : 31 名

みんなで考えた 地域の不安と地域活動の課題

防 犯

- ・ 防犯灯を増設してほしい
- ・ 空き家があり不安
- ・ 高齢化が進んでいるので防犯委員にPTAの協力がほしい

道路や施設

- ・ 道路が狭いところが多い
- ・ 避難場所まで遠い
- ・ 公共施設の耐震化が不安
- ・ 無線放送等がほしい

地 域

- ・ 普段つきあいのないアパートや寮などがある
- ・ 民生委員が少なく要援護者支援が不十分である
- ・ 屋間に若者がいない

水 害

- ・ 水害が一番怖い
- ・ 雨が降るとすぐ冠水する箇所がある
- ・ 川沿いの道路排水を強化すべき
- ・ 自分の住んでいる所は海拔どれくらいあるのか表示してほしい

Aグループ



Bグループ



ふれあい

- ・ あいさつがなくなってきた
- ・ 人を知ることが重要である
- ・ アパートは人の入れ替わりが多くてコミュニティを形成しにくい
- ・ 町会のみとまりとしてアパート住民は協力しにくい
- ・ 災害時の連絡方法を決める必要がある
- ・ 防犯組織への情報連携が不十分である

地 震

- ・ 地震時の液状化が心配である

防災意識

- ・ 災害の記憶が風化している
- ・ 防災訓練の参加者が固定している

水 害

- ・ 堀割町5番地はよく浸水する
- ・ 大雨の際、水害ポンプはあるが停電時は心配である

交 流

- ・ 集合住宅の人たちとも交流が必要
- ・ 家が全焼したら誰が助けてくれるの
- ・ 隣の人の名前、顔が分からない
- ・ ゴミだしの時に会う人の顔は分かる
- ・ もっと女性を組織に入れた方がよい
- ・ 30歳~40歳の人を率先して動ける組織がない
- ・ 日常からの住民との会話が必要

要支援者対策

- ・ 日中の対応が問題である
- ・ 高校生は活用できないか
- ・ 救助の優先順位を決めておいたほうが良いのではないか

情 報

- ・ 情報の収集・伝達方法をしっかりする必要がある
- ・ 企業の方々との情報伝達と交流をしたい

Cグループ



避 難

- ・ 地震時の避難場所の確保
- ・ 公園を避難場所にできないか

避 難

- ・ 文京町には一時避難場所がないので地域内の公園を指定してほしい
- ・ 自宅周辺のどちらの避難所に避難すれば良いのか分からない

高齢者

- ・ 災害時に避難しようとしていない高齢者が多い
- ・ 高齢者が多く、自力で避難できない人が多いのでは

交 通

- ・ 幅の広い道でも一方通行があり、無視する車もいて危険
- ・ 時間帯による車線変更は危険

地域の情報

- ・ アパートに住んでいる人への情報伝達が難しい
- ・ 災害・犯罪情報などの地域掲示板を店舗などに置かせてほしい
- ・ 個人情報に縛られている

Dグループ



松浜小学校区

平成 20 年 12 月 8 日 (月) 午後 7 時から
北出張所大ホールにて
参加者 19 名

みんなで考えた 地域の不安と地域活動の課題

地形

- ・川に囲まれている
- ・坂が多いので、雨が降ると低地に水が集中してしまう
- ・道が狭い

地震・津波

- ・液状化の問題が心配
- ・堤防破壊による浸水が心配
- ・新井郷川は危険ではないのか
- ・津波が川を逆流して破堤したりしないか

コミュニティ

- ・希薄化、疎遠化している
- ・アパートとの交流がない
- ・日中は大人が少ない
- ・家族との安否確認が心配
- ・隣に誰が住んでいるかわからない
- ・コミュニティの人材の高齢化
- ・会議参加者の固定化

外国人

- ・外国人との言葉の問題
- ・中国人が多い

Aグループ



Bグループ



0m地帯

- ・0m地帯であるとの認識が必要
- ・津波が一番心配
- ・堤防や砂丘の高さが心配
- ・二本の河川からの浸水が心配
- ・排水機能の強化

避難

- ・新潟地震の経験から、家族の集合場所を決めている
- ・低地が多いため避難場所の選定は難しいのではないかと
- ・避難方法に不安がある

地域活動

- ・防災リーダーが少ないので、地域全体として育成できない
- ・日中のひとり暮らしが多い
- ・外国人との対話が難しい

情報の伝達

- ・防災無線放送が聞こえにくい
- ・何mの津波が来るといった情報が欲しい
- ・独居世帯への伝達が心配

水害対策

- ・地震時の津波対策が心配
- ・集中豪雨の浸水対策が心配
- ・松浜海岸の侵食の問題
- ・避難場所がわからない

避難場所

- ・非常食が不十分なのではないか
- ・小学校が避難所となっているが大丈夫なのだろうか

外国人

- ・東港の外国人中古車販売業者（ロシア人）と周辺の防犯問題
- ・外国人（中国人）によるごみステーションのアルミ缶回収問題

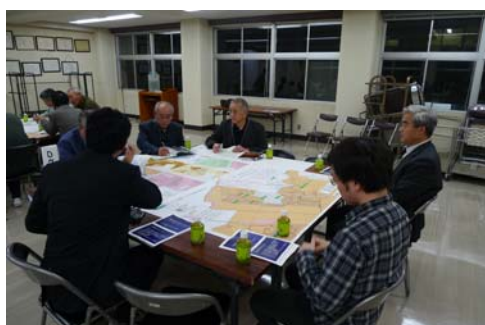
その他

- ・化学工場があり不安
- ・飛行機の墜落が不安である
- ・児童の交通事故の心配
- ・松浜地区のみで本当に対応できるのか不安

Cグループ



Dグループ



内水

- ・排水が悪く年 3~5 回の出水がある
- ・水害に備えてゴムボートを準備することを検討している

ごみ

- ・特に秋口、自宅廻りの落葉の清掃をしない人が増えている
- ・ごみの分別とごみ出し日の周知徹底が難しい（特にアパート）
- ・新井郷川のごみ散乱、いざという時モラル低下で地域協力できるか

コミュニティ

- ・町会費をもらっているのに会報を配布しているが反応がない
- ・近隣とのコミュニケーションが取りにくい
- ・銭湯が減り、コミュニティの場がなくなった

高齢化

- ・高齢化により空き家が目立つようになってきた